

## 甲府市議会「政友クラブ」視察研修報告書

報告者 末木 咲子  
深沢 健吾  
鮫田 光一

### 1. 日程

令和元年 11 月 7 日（木）～11 月 8 日（金）

### 2. 視察先・内容

- ①熊本県益城町 『災害ボランティアの受け入れについて』
- ②熊本県玉名市 『ワンペダル（ペダル踏み間違い防止装置）整備費用の補助について』  
ナルセ機材有限会社 『ワンペダル（ペダル踏み間違い防止装置）について』

### 3. 参加者 9名

池谷 陸雄	原田 洋二	岡 政吉	坂本 信康	長沼 達彦
小澤 浩	末木 咲子	深沢 健吾	鮫田 光一	

### 【視察概要①】

#### ①熊本県益城町

- (1) 視察日程 11 月 7 日（木）
- (2) 視察場所 益城町社会福祉協議会
- (3) 視察内容 『災害ボランティアの受け入れについて』
- (4) 対応者 益城町社会福祉協議会 総務課 江崎 孝行

### 【益城町の概要について】

益城町は、熊本県のほぼ中央北寄りに在り、県庁所在地熊本市まで 8.5 km、熊本市役所まで 13 km、また、空の玄関口である阿蘇くまもと空港まで 7.5 kmの至近距離に位置している。

町の東部から南部にかけて九州山地系に属する城山をはじめ、朝来山、船野山、飯田山の四峯が連なっている。北部一帯は、約 2,000ha にも及ぶ益城台地と称される畑地がひらけ、中央平坦部は、水田約 1,000ha が整然と整備され、穀倉熊本平野の一環を形成するとともに、都市郊外型の住宅地帯が広がっている。

総面積は、6,568ha で、長さ東西約 11 km、南北約 13 km、周囲約 48 kmとなっている。

●総人口 33,011 人

## [熊本地震の概要]

平成 28 年 4 月 14 日午後 9 時 26 分と、16 日午前 1 時 25 分の二度にわたり、震度 7 の激しい地震が益城町を襲い、多くのかけがえのない命や、大切な財産が奪われた。

発災以降、震度 6 以上の余震が 5 回、震度 1 以上の全余震発生回数は 4,200 回を超え、避難者数は、最大で 1 万 6 千人に及んだ。また、全半壊約 6,200 棟、一部損壊を含めると約 98%を超える住家が被害を受けており、今でも多くの方が仮設住宅等での不自由な暮らしを余儀なくされている。さらに、道路や上下水道等のライフライン、役場庁舎、総合体育館等、多くの公共施設も甚大な被害となった。

## [災害ボランティアセンターの設置]

震災直後の平成 28 年 4 月 15 日に益城町より災害ボランティアセンターの設置要請がされ、震災後のボランティアの受入体制の確保を図り、ボランティアによる福祉救護活動が円滑かつ効果的に展開されることを目的とする。

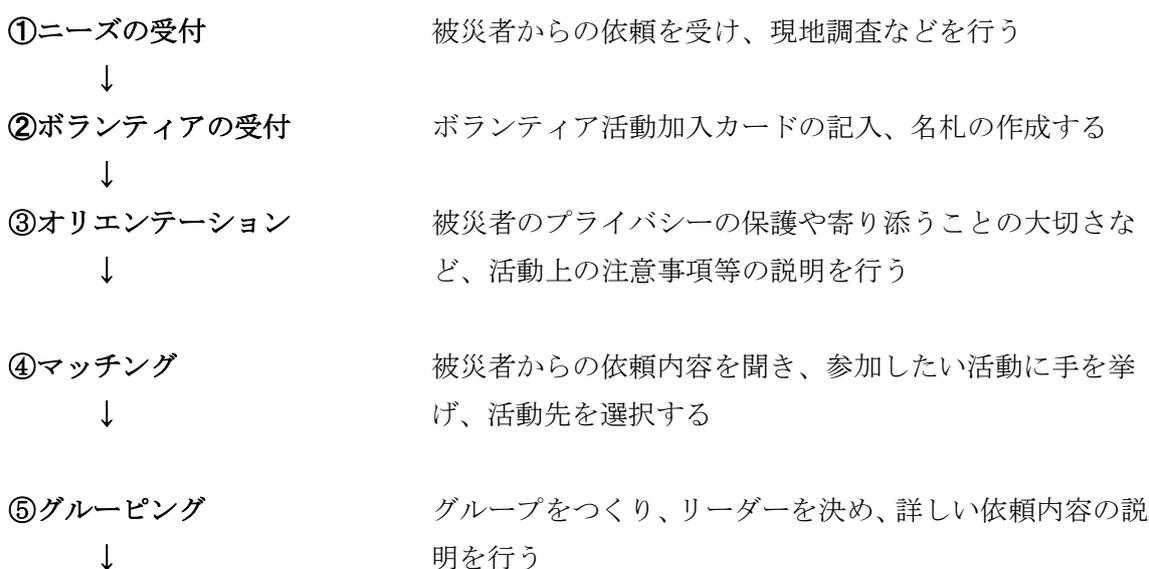
◎支援に来るボランティアにとっては・・・

ボランティア活動をしたいが、どこに行ってもどのような作業があつて、何が必要なのかわからない？

◎支援が必要な被災者にとっては・・・

一日も早く自宅に帰りたいが、自分たちではできない。ボランティアも来てくれるが、信用できるか不安？

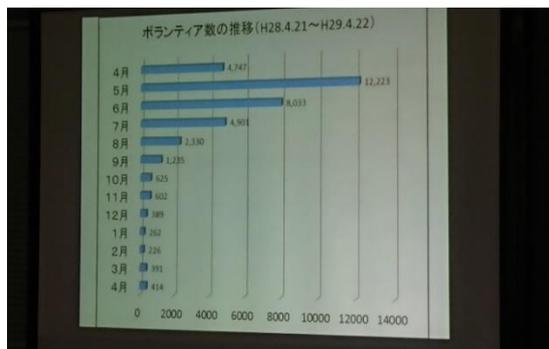
## 災害ボランティアセンターにおける活動の流れ



- ⑥資材の貸出し・送迎                      必要な資材の貸出や、作業用車両の確認、ボランティアの送迎も行う  
↓
- ⑦救援活動                                      「被災者に寄り添う」という気持ちを大切にしながら、福祉救護活動を行う  
↓
- ⑧活動報告                                      リーダーは活動状況と活動継続の有無をスタッフに報告する

※ 益城町災害ボランティアセンター設置運営にかかった費用  
(平成 28 年 4 月 21 日～平成 29 年 4 月 22 日まで)

**107,164,454 円**



**[全国からの支援]**

個人・団体や行政・民間を問わず、震災直後から多岐にわたる支援が集まる。

- 災害ボランティアセンター受入数  
**36,378 人      活動件数 5151 件**
- 全国からの派遣職員数  
**203 人**
- 町への義援金  
**約 11 億円**
- 2016 年度ふるさと納税  
**約 3.2 億円**

**[災害ボランティアセンター閉所後の活動]**

益城町災害ボランティアセンターは平成 28 年 4 月 21 日～平成 29 年 4 月 22 日の約一年間の活動を行い、平成 28 年 10 月から益城町より地域支え合いセンターの委託を受けてい

る。災害ボランティアセンター閉所後は、ボランティアの調整や被災者支援は、益城町地域  
支え合いセンターで行っている。

・支援内訳

①仮設住宅：1,562 世帯

②みなし仮設住宅：1,504 世帯

③在宅被災者（半壊以上）：3,612 世帯

このような方をメインに生活再建に向けた支援を行っている。

現在では、約 6 割の方が生活再建されており、主な活動内容は、被災者宅の訪問、生活再  
建状況の確認、課題のある世帯への定期訪問、仮設住宅内コミュニティづくり、ボランティ  
ア調整等を行っている。

残っている約 4 割の方も令和 2 年 3 月完成予定の災害公営住宅への入居待ちの方が大半  
となっていて、  
災害ボランティアセンター同様、関係機関やボランティア団体と連携しながら活動を行っ  
ている。



益城町社会福祉協議会にて

## [まとめ]

益城町では、地震発生直後に社会福祉協議会を軸とした災害ボランティアセンターが設  
置され、未曾有の災害で誰もが先行きの不透明の中で様々な機関に協力をいただきながら、  
今日までの復旧・復興やボランティアの受け入れ状況など、実際に体験した貴重な話を伺う  
ことができた。

全国から寄せられる義援金や支援物資、ボランティアさんの振り分けなどには、経験豊富  
な全国社会福祉協議会や都道府県社会福祉協議会から災害支援に長けた方が派遣され、そ  
の災害支援のプロと話し合いをしながら、地域の災害支援要請に沿った災害ボランティア  
センターの運営が重要であり、日頃からの各関係機関との連携が必要だと感じた。

本市においては、地区防災計画や地域防災マップを各地域において作成は進んでいるものの、災害時に有効かつ実用的に活用できる状況にあるのかを検証していく必要がある。

注意すべき悪質なボランティアへの対応や SNS を有効利用しながら支援の輪を拡散していく方法など、知識や経験を有する方の存在も重要であったようだ。

自助・共助・近助の意識を高めながら、いつ起こるかわからない自然災害に対する備えをソフト・ハード面ともに日常生活の中で、自治会・組単位で真剣に協議していくことが命や財産を守る減災に繋がっていくのだと感じた。

## 【視察概要②】

### ②熊本県玉名市

- (1) 視察日程 11月8日(金)
- (2) 視察場所 玉名市役所  
ナルセ機材有限会社
- (3) 視察内容 『ワンペダル(踏み間違い防止装置)について』
- (4) 対応者 玉名市役所総務部防災安全課 課長 藤森 竜也  
〃 市議会事務局 書記 入江 光明  
ナルセ機材有限会社 代表取締役 鳴瀬 益幸

### [玉名市の概要について]

玉名市は、熊本県の北西部に位置し、平成17年10月3日、玉名地域1市3町(玉名市、岱明町、横島町、天水町)が合併し、南北約17km、東西約14.5km、市域の面積は152平方kmとなった。また、熊本市と大牟田市の中間にあり、有明海、菊池川、小岱山及び金峰山系の山々などの豊かな自然や数多くの歴史的資源に恵まれている。

産業面では米やミカン、イチゴをはじめとする野菜、果物等の農産物やノリなどの水産物の生産が盛んで、市街地の北部、小岱山の麓には1,300余年の歴史と泉質の優秀さを誇る玉名温泉があり、県北部の中心の地となっている。一方、市の南部、有明海をのぞむミカン園の丘にある小天温泉は、夏目漱石の名作「草枕」の舞台としても知られている。

九州新幹線鹿児島ルートが全線開通に伴い開業された新玉名駅により、熊本都市圏と福岡都市圏への交通の利便性が向上し、従来のJR鹿児島本線や九州縦貫自動車道、有明フェリーなどとあわせて、県北の交通の拠点として今後の発展が期待されている。

また、NHK大河ドラマ「いだてん」の主人公でもある、日本マラソンの父「金栗四三」のゆかりの地として注目を集めている。

●総人口 66,319人

### [全国における交通事故の現状]

全国における交通事故死亡者数は、過去最悪とされる 1970 年の 16,765 人に対し、昨年 2018 年では 3,532 人となり、統計を取り始めた 1948 年以降では最小となったものの、65 歳以上の交通事故死亡者の割合は 55.7%で過去最高となるなど、高齢化社会が加速する中において高齢運転者の交通事故防止策は喫緊の課題となっている。

### [安全設計ペダル ワンペダル]

ブレーキペダルとアクセルペダルの踏み間違いによる事故が増えている中、「ワンペダル」とは、踏み間違いを防ぐためアクセルとブレーキを一体化させたペダルで、足を右に傾けるとアクセル、踏み込むとブレーキがかかる仕組みとなっている。

パニック時でもブレーキペダルしか存在しないため、踏むことができるのはブレーキのみであるため、即停止できる。

### [玉名市の AT ワンペダル整備費補助金交付の経緯]

#### ○平成 23 年度～平成 25 年度までの補助の経緯

##### ①平成 21 年度の 6 月議会にて一般質問あり

高齢者が被害者や加害者となる交通事故の多発に伴い、ナルセペダルを紹介

##### ②平成 22 年 9 月下旬、「ナルセペダル」の補助について、内部で協議・検討

補助対象年齢について、踏み間違いによる事故は高齢者に多いと思われがちだが、過去の発生件数の推移を見ると 20 代が多いため、年齢は限定せず、平成 23 年度当初予算要求額は、20 件分とし、整備費用の 1/2（上限 5 万円）とした

##### ③平成 22 年 10 月 19 日に NHK の「クローズアップ現代」で踏み間違いによる事故の研究、検証について「ナルセペダル」が全国放送される

##### ④平成 22 年 12 月議会一般質問で「ナルセペダル」の補助について質問があり

答弁では、整備費用は 10 万円程度、補助率は 1/2 程度

##### ⑤平成 23 年 4 月 1 日「玉名市 AT ワンペダル整備費補助金交付要綱」施行

（補助対象期間は平成 23 年度～平成 25 年度までの 3 年間）



玉名市役所にて



○平成 29 年度からの補助を始める前までの経緯

①AT ワンペダル整備費補助制度の復活を求める請願

(平成 28 年 3 月議会 請願者 NPO 法人安心運転支援センター理事長 西島衛治)

内部で協議・検討

②課内協議において、平成 25 年度の 20 件分の予算に対し、7 件の要望であったため、平成 29 年度の予算については 10 件分の 50 万円 (5 万円×10 件) とし、平成 29 年度より補助を復活



ワンペダルの仕組みを体感

【これまでの施行実績】 (※玉名市 R1. 10. 21 現在)

	H23		H24		H25		H29		H30		H31	
	男性	女性										
90 歳以上	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80～90	3	0	2	0	0	0	0	0	1	0	2	1
70～80	7	5	3	2	2	2	4	0	0	1	9	2
60～70	6	4	6	5	1	0	2	1	0	1	1	0
50～60	2	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
40～50	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40 歳以下	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	19	11	12	8	4	3	6	1	2	2	12	3
	30		20		7		7		4		15	

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
踏み間違え 事故件数	23	30	29	19	14	12	7	4	



ナルセ機材有限会社にて



工場の様子

### [まとめ]

全国各地で発生している高齢運転者における交通事故防止策は喫緊の課題とされている。こうした中、2010年頃にかけて世界の各メディアで取り上げられた「ナルセ機材(有)のワンペダル」は会派の中でも話題となり、今回の視察を楽しみにしていた。

現地である工場に着いてみると、近代的な施設とは程遠い、想像を絶するまさに町工場であった。本業は、海上作業船の製造・修理などを営んでいる会社であるが、20年程前から交通事故の起こらない車を求めて鳴瀬社長が「ワンペダル」の開発に取り組み始めた。これまでも最良品を求め続けて試行錯誤を繰り返し、現在のタイプの商品化に至っている。

当日は全員がデモカーに乗り、「ワンペダル」の操作方法や効果について体感することができた。思ったよりも簡単に操作ができ、お年寄りでも少し練習をすればすぐに操作ができるようになるなど、ペダルの踏み間違い防止には大変有効的なものであると感じた。

また、この「ワンペダル」にかける鳴瀬社長の地域を思いやる気持ちや、損得を抜きにした社会のために貢献したいという熱い思いにも感銘を受けた。

玉名市においては、平成23年から整備費補助金制度を開始し、全国でも先駆けて取り組んできた成果が市民への交通安全に対する意識向上や交通事故減少の実績として結びついている様子もうかがえた。

政府においても2021年を目途に安全サポートカーの普及促進を図るとされ、対策が検討されているが、本市においても、本格的な高齢化社会において安心・安全な交通環境整備に向けての対策を講じる必要がある。

ぜひ、この「ワンペダル」の調査・研究を進め、本市の公用車などへの取り付けの検討を要請しながら、交通事故防止策の具体的な対策と意識向上に繋げていきたい。